施策評価シート（令和５年度　実績）

【行政評価】
施策１

重点的方針	公共施設の利便性、機能性を高めるまちづくり
概要	人口減少・少子高齢化社会を見据え、各機能を集約し、利便性を高めた施設への再編を進めます。再編にあたっては、老朽化した公共施設の更新・統廃合だけでなく、近年激甚化している自然災害への対応、人生100年時代に即した町民活動の推進、そして子育て世帯や高齢世帯の支援など、すべての世代が暮らしやすくなるよう検討していきます。 新庁舎整備をはじめとする生涯学習センター・ラディアン周辺への行政機能の集約にあたっては、災害時における拠点機能の強化、行政機能の向上、「脱炭素社会」のモデルとして着実に進めるとともに、すべての世代、様々な立場の方々に配慮した居心地の良い空間としていきます。 そして、多様化する町民ニーズに対応するため、誰もが理解しやすいデジタル化を進めるとともに、様々な手続きのワンストップ化さらにはノンストップ化を目指し、時代に即した町民サービスを提供します。

No.	関連する主な予算等事業	トータルコスト（千円）				庁内評価（２次評価）			
		R5	R6	R7	R8	R5	R6	R7	R8
1	施設再編推進事業	201,124				適当・維持			
2	生涯学習センター管理運営事業	71,333				適当・維持			
3	図書館運営事業	31,979				適当・要改善			
4	消防庁舎維持管理経費	10,326				良好・維持			
5	保健センター管理運営経費	6,622				適当・維持			
6	デジタル推進事業	64,495				良好・維持			
–	その他	2,720,948							
合計		3,106,827	0	0	0				

※達成状況：A　達成（100%以上）、B　概ね達成（70%以上）、C　充分とは言えない（50%以上）、D　未達成（50%未満）

関係する主な重要業績評価指標（KPI）

指標名		基準値	R5	R6	R7	R8	達成状況
公共施設の総延床面積(㎡)【戦略】(施設)	計画	68,729.08	68,589.08	68,449.08	68,309.08	68,169.08	B
	実績		68,607.07				
1地区１地域集会施設化（件）【戦略】(施設)	計画	25	24	23	22	21	A
	実績		24				
ラディアンの稼働率【戦略】（%）	計画	44.4	46.0	47.0	48.0	49.0	B
	実績		45.5				
図書館の年間貸出者数(人)	計画	80,121	81,000	81,000	81,000	81,000	B
	実績		79,151				
行政手続きのオンライン化（件）【戦略】	計画	11	30	60	100	140	A
	実績		59				
住民票等の証明書のコンビニ交付件数（件）【戦略】	計画	718	3,000	3,500	4,000	4,500	A
	実績		3,352				

前年度	成果	–
	課題等	–
今年度	成果	・新庁舎基本設計に着手した。また、百合が丘、下町、入川匂老人憩の家の耐震改修を行った。 ・コロナ禍を経て、町民活動が再開されたこと、各種イベントの実施などにより、ラディアンの利用が回復しつつある。 ・行政手続きのオンライン化については、消防関係の手続きを中心にオンライン手続きの拡大に取り組んだ。 ・コンビニエンスストアで住民票等の証明書の交付を受けられるデジタルサービスを提供し利用の促進を図った。
	課題等	・公共施設再配置・町有地有効活用実施計画短期期間の終了（令和９年度）に伴う計画の見直し。 ・上記計画への新庁舎と学校の位置づけ、財政計画を見据えた新たな延床面積削減目標の設定。 ・図書館の利用方法、イベントの見直しなど、集客につながる工夫が必要である。 ・手続きのオンライン化については、町民のニーズを的確に捉え、オンラインでできる手続きの更なる拡大を図る必要がある。手続きのオンライン化も証明書のコンビニ交付も、更なる周知に取り組み、利用の拡大を図る必要がある。

※評価 「Ａ：十分な成果があった」「Ｂ：一定の成果があった」「Ｃ：あまり成果がなかった」「Ｄ：成果が得られなかった」

内部評価（評価・理由等）	
Ｂ：一定の成果があった	・ラディアン周辺に行政機能を集約しワンストップで行政サービスを提供する将来のまちの姿について、新庁舎・駅周辺公共施設再編計画としてとりまとめている。 　また、未耐震の地域集会施設の耐震診断を実施し、地域との協議を経て、建替、耐震化などを進めている。 ・手続のオンライン化も、証明書のコンビニ交付も目標値は達成していることから、手続きの利便性の向上に効果的であるといえる。今後は、利用率拡大を目指して、更なる周知を行い、町民の皆様にデジタルサービスを有効に活用していただくことで利便性の向上を図る必要がある。
外部評価（評価・主な意見等）	
Ａ：十分な成果があった	・町は高齢者が多く、また、学校の統廃合を実施した場合は、通学時間が長くなってしまう児童・生徒が出てしまうことから、将来を見据えた交通手段の確保が必要である。 ・1地区１地域集会施設化の実現のためには、今後、地区の統合にも着手する必要がある。それにあたって、統合の目安として世帯数をKPIに設定するなどして、世帯数の減少が顕著な地区は、隣接する地区との統合を検討してもよいのではないか。 ・図書館で電子書籍の貸し出しを導入する自治体も増えているため、公共施設の利便性、機能性を高める観点から、他市町村との共同導入などの検討も含め研究を進めること。 ・図書館のこども向けコーナーについては、大きな改修よりもまずはすぐに着手できる小さな改善が必要。一角におもちゃを設置すると、乳幼児連れの保護者も利用しやすくなる。 ・普段、図書館を利用しない方にその存在を意識してもらうため、駅への返却ボックスの設置や子育てサロンにおすすめの本を置くなどのアプローチが必要である。 ・行政手続きのオンライン化や証明書のコンビニ交付件数は、基準値を大きく上回る実績のため、利便性は高められたと言える。 ・施策に位置付けられた各KPIの実績は、概ね計画通りとなっているため、順調に進捗していることが伺える。

※　町の最終方針 「継続推進」「一部改善」「抜本的見直し」

町の最終方針（今後の方向性）	
継続推進	**〈公共施設の利便性、機能性を高めるまちづくり〉** **役場新庁舎の整備** 二宮果樹公園内に新庁舎を整備するため、設計と施工を一括で行うデザインビルド方式を採用し、令和10年度の供用開始を目指す。令和7年度は発注準備や実施設計、関係機関との協議を進める。 **ラディアン・図書館のリニューアル** 開設から25年が経過したラディアン・図書館を、「みんなの居場所」として再構築する。令和10年度のリニューアルオープンを見据え、令和7年度は実施設計を行う。 ・生涯学習施設として、ラディアン・図書館へ人が集う居場所づくりを目的に大規模改修・リニューアルの計画を進めている。乳幼児連れの保護者の利用にあたっては、絵本の面出し（陳列の手法）や資料展示（紹介）等についてより工夫することで、利用しやすい図書館となるよう取り組んでいく。 これまでも利用者の声を活かしながら運営をしており、小さな改善を重ねて、幅広い世代の利用者にとって、より利用しやすい施設となるよう運営していく。 ・電子書籍について導入自治体の例を入手し検討してきたが、利用者が自宅でいつでも電子書籍を利用できるメリットがある一方で、来館する機会が減少する懸念や、費用面のデメリットがある。電子書籍の共同導入は長野県等で事例があるが、スケールメリットを活かせるような形で導入することが、現状では難しい。 町としては、ラディアン・図書館に人が集う居場所づくりを重視して、大規模改修・リニューアルの計画を進めているところであり、電子書籍は当面導入しない方針である。 ・駅返却ポストを導入している自治体の多くは、本館と分館等を結ぶ巡回車があり、この巡回車が駅に立ち寄って、返却資料を回収していくことで効率よく実施している。一方、当町には巡回車の仕組みがなく、駅に返却ポストを設置した場合のコストが高くなる。返却ポスト設置に対する利用者の要望は多くなく、費用対効果の面から当面実施しない。 現在図書館を利用していない方へのPRや、来館のきっかけ作りとして、新しいイベントの実施、小中学校の図書室に新着資料案内を置いてもらうといった取組みを新たに始めており、また、町公式SNSを積極的に活用することで、さらにPRを進めていく。 さらに、4か月児健康診査の際に保健センターで行っているブックスタートに加えて、子育てサロン・保健センターとより一層連携した取組みを行うよう検討中である。 **地域集会施設の耐震化** 災害時の避難所となる地域集会施設の耐震化を進める。令和7年度は中里西会館の耐震等改修工事を実施する。 ・地区の再編による１地区１地域集会施設化は、人口減少や高齢化に伴い、将来的に必要であると考えているが、地区の理解と協力が必須であることから、その機運醸成のため、地区長との議論を継続する。 **消防庁舎の大規模改修** 老朽化が進む消防庁舎の改修を令和6・7年度で実施。令和7年度は訓練棟の新設や指令設備の移設などを行い、災害対応力の強化を図る。 **山西プールの改修** 昭和57年建設の山西プールについて、さまざまな年代の方にも利用しやすい施設とするため、令和7・8年度の2か年で設計を進める。